

## 平成29年度 名張市男女共同参画推進審議会 会議録（概要）

日時：平成29年7月14日（金）午後2時～4時

場所：名張市市民情報交流センター会議室

1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. あいさつ
4. 議事

### （1）男女共同参画基本計画にかかる進捗状況について

- ・平成28年度事業実績について 冊子、資料1、2
- ・平成29年度事業事前評価について 冊子、資料3

（事務局説明）

（会長）ありがとうございました。それではもう少しここはどうなってるかとかそういう疑問、あるいはご意見等どこからでも結構ですでお受けしたいと思います。

（委員）2016年度の実施状況の取組及び課題についてという所なんです、名張市が男女共同参画に取り組む具現を頑張らして頂いたということではありますが、前年度ですね、見させて頂くと、実施出来てないというのが結構あるんですよ。今年度はぜひですね、そういう男女共同参画の実施におきまして、ぜひ行って頂きたい重点項目なんじゃないかなと思います。それとですね、もうひとつ。これはですね、文章的な事なので決して悪く言うつもりはありませんが、2016年のですね、16ページの一番下の左側です。ネットワーク会議の事がちょっと書いてあるんです。名張男女共同参画推進ネットワーク会議の事なんです、これはですね、一番左側に事務局の事が書かれておりますよね。事務局が名張男女共同参画推進ネットワーク会議の事務局が市から切り離されたため、今後は市主体での働きかけとなりますと書いてあるんですが、ネットワーク会議の事務局が市から離れたのはネットワーク会議が申し出た訳ではなく、全くその逆でありますから、ちょっとこの書き方には問題があるように思っております。と言いますのがね、やはり男女共同参画の推進する時に今年度にかぶるんですよ。2017年の実施計画についてもですね、市民活動団体と連携してやって行くんだということも書いて頂いてますが、やはりその一番大きな核となる団体だった名張男女共同参画推進ネットワーク会議、ここはですね、市の管掌団体から市民活動団体となりまして、ちょっとそういう意味合いの活動っていうのもやりにくくなっている状況なんです、それは置いて。とにかくこの書き方だとちょっと問題がある

というふうに思いましたので、これは書き直して頂ければと思いますね。以上です。

(委員) 私ここに印付けましたんですけど同じところなんですが、切り離された事情とか背景とか教えて頂けるでしょうか？

(委員) ネットワーク会議の会長なので双方の言い分があると思うんですね。一応、書類的なものは市にもお渡ししてありますので、同じ事を言わせて頂くのはどうかなと思うんですけど、つまり男女共同参画推進ネットワーク会議というのは市のですね、男女共同参画推進フォーラムについて大きく関与してきた団体なんですね。だから男女共同参画推進フォーラムの企画、立案、運営これを市と共同でやって行きましょうという事で立ち上げて、市が立ち上げた団体なんですね。皆さん、市からの呼びかけに応じて、推進ネットワーク会議にはまっていた訳なんです。で、ずっとやってたんだけど、前年度の男女共同参画推進フォーラムから全くネットワーク会議が関われなくて、その事について市の方にきちっとした話をして頂きたいと話し合いの場を設けたんですね。地域環境部長の方から名張男女共同参画推進ネットワーク会議は一市民活動団体と考えておりますと。会則に事務局は当面の間、市がすると。だけど10年以上経っているのにもう当面って言うのはおかしいよね。ということつまり一市民活動団体と考えているということではですね、どこにでもある活動団体ということになりますので、そうなるとちょっと認識が違うので、登録団体の皆さんに確かめないと次年度の活動は出来ませんよとなりますので、皆さんどうしますかということでお話を頂いておったんですね。ちょっと減りましたがその辺りネットワーク会議にはまってる団体が、だけどまあ0ではない感じです。

(会長) それはいつ。去年？

(委員) 去年ですね。お話を頂いたのがね、結局総会を毎年5月にするんです。その時にその事業の活動についてフォーラムももちろんやるんですけども承認されたんです。ですから去年は絶対やんなきゃいけないのね。だからそれは部長にも言わせて頂いたんですけども、そういう話であれば期の途中ではなくて、総会でできつく言って頂くっていう意向でしたんということとは私は言わせて頂きました。けども実際に何も関われなくなった訳ですから、今年度はもう去年とは全然違いますから、市民活動団体ですから。だからそこら辺がそれがどうこう言う、どうこうじゃないんだけどここに書いてあるその書き様がおかしいんです。だから訂正して欲しい。それだけです。

(会長) 市の方はすぐ代案にしてどのように市民との連携とか取っていくような代案とか今後の方針とかそういうもの市の方から。

(委員) 出てないです。今年何らかの形でね、出てくるのかどうかそれは知りませんよ。まだネットワーク会議、そうするとネットワーク会議じゃなくて地域づくり組織とかも含めて全ての団体に、またこういうふうにしてやって行きましょうねとかいうようなその協力の事とか、色々来るんじゃないですか？市の方がどのように考えてらっしゃるか分かりませんので、それは市の方からまたね、ご提案頂かないと。

(事務局) 今年度の取組としては既に、男女共同参画週間の街頭啓発をですね、市民活動団体の皆さんと協力させて頂いたところなんですけども、ここに書いてるようなその市主体での働きかけの形になって、具体化しているかと思うんですけども、昨年度はネットワーク会議の事務局として傘下の団体さんに協力をお願いをさせて頂いてたんですけども、今年度につきましては、そのネットワーク会議さんも含めまして、昨年度その離脱された団体さん等に、一緒に街頭啓発やりませんかと男女共同参画週間の趣旨に賛同してやりませんかというふうにお誘いさせて頂きまして、ご賛同頂いた方に参加して頂いて事業を行いました。ですので今後、こういうふうな形で場面場面で直接お声掛けをさせて頂くようなことで新たにですね、関係を作っていく事になるかと思っております。

(委員) 去年まではね、この団体から何名という形で結構たくさん参加してたと思うんです。今年の場合は市が事務局でなくなって、知ったのが遅くて、もう自分の団体の行事とかが入ってたんですよね。参加はさしてもらわなかったんだけど、どれぐらいの団体、どれぐらいの人数が啓発活動に参加してくれたのかなあと。

(事務局) 確か6団体だったと思います。

(会長) このフォーラムというのは毎年やるんですか？

(事務局) 男女共同参画推進フォーラムは毎年やってます。

(会長) 毎年週間に合わせてやる訳ですね？

(事務局) これは時期は特定してる訳ではないんですけども、大体年明けの1月ぐらいに。

(会長) 今年は市の方が主体的にやった訳ですね？

(事務局) はい。

(委員) 私たち外部から見てるんだけど、事務局がどうであろうとですね、市民が参加

してもらって、それで市と協働できている。それが広がっていることがベストの形だと私は思うんです。今お話聞いてたら新しいとかちょっと新規にやったということなんですよ。そうするとそういうやり方でこれぐらいの評価があると、良かったということであれば市が打ち出して行けば良いし、なぜその市民参加が少なかったのかというような辺りでもっとこういう改善点があると思うんですね。そういう総括と言うんですかね？そういうのを聞いて頂きたいんですけども。10年ぐらい実績を残してこられて、これは続くんだろというのも市民も期待している事ならば、そういう期待を裏切らないような形でいい案をプラスしていくという事業の在り方というのをちょっと知恵を絞って頂かないとだめですよ。今まで協力してきて、何やというようなことになったらこれは元も子もないということですよ。

(事務局) はい。

(委員) 今のお話伺って資料見てたので、この1の2017年の方ね。ページ5でネットワーク会議加入団体数、25。徐々に増やして30まで持っていくという話ですね？

(委員) それは管掌団体だということ。

(委員) 市としてはこういう活動されてる数を増やして行きたいのが意向なんでしょう？

(事務局) そうですね。ただこの部分につきましてはですね、計画策定の動きと、ネットワーク会議の体制の関係との間でその時間の齟齬と言いますか、そういうズレがありましてですね、先にこっちの計画、ネットワーク会議さんの事務局やってる時点での話が進んで、確か年度末ぐらいですよ。その辺の所の話と言うのは。

(委員) そのお話を頂いたのがねえ。10月ですね。

(委員) 名張ネットワークのフォーラムの色んな計画をしなければいけなくて、なのに我々関われないのはどうしてなの？って言うんですよ。もうその時にねえ、もうチラシも出来てネットワーク会議の側には何も入ってないんじゃないのよって、1回事務局さんと役員会で話そうということになったんです。で、ネットワーク会議の事も気になるんだけど、さっき会長がおっしゃったようにね、フォーラムってやっぱり1番男女共同参画をこう啓発する大きな事業の中でそれはぜひ続けて行って欲しいなあと。

(事務局) 資料5ですけども1月20日予定と書いてますので、その中で男女共同参画推進フォーラム、1月20日予定と、これです。

(委員) 日時はもう押さえてるというか。やるのはこれはもうだいぶ先の話でこれはやる気満々。

(委員) これは市民から見てみたらやっぱりやる気満々でやりはるのやなあ。だからこの人数をね、参加人数を20団体をね30までに広げていくとは市としてはその市民の活動をサポートするみたいな、呼びかけて増やして行きたい意向やねんなあという気持ちでこれ資料を見てたんです。で、今説明がありましたようにね、今度は市主体での働きかけとなります言うたら、どちらかと言うと何か奪ったような感じに受けたんですよ。言い方悪いか分かりませんがね。それでかつこの題を見るとね、情報交換を図っていきますと言うでしょ？情報交換図っていきます言うてるのに、こっちでは何か市が主体でやりますよと言うたり、方向性は20から30増やしたり、フォーラムはもう1月20日に決まってる。支離滅裂な感じがしたんですけどね。

(委員) 旗振りは市がして頂いて良い。してくれないとできない。でも実際にやるのは市役所だけではできないんですよ。我々市民がやらないと。だからね、私はそれをね、一生懸命言ったんだけど分かってもらえなかったんやなあと言うのが実の所あるんです。

(委員) 今現在、もう5団体減っちゃってるんで。

(委員) 我々はやろうとしているんですよ。

(委員) だから一緒に共同で市役所とはやって行きたいなと思うんですよ。だけど、意思の疎通がないと中々できないんでね。そこら辺の情報交換って言うのはやっぱり必要なんだから。

(委員) それをね、突っ込んだ話してあれやけども、もちろん市のね、こう事務局の部長を始めね、皆さんで議論されたんですよ？ですって言ったらかかしいけど、市長からもその市長を忖度してとかそんなないですよ。だからその市の中でそういう動きが、或いは何か市民の一人としては、ちょっとお互いどうなってるんかなってイメージ受けるんです。あんまりかんばしくないですよ？

(委員) まちづくりにかかわる立場から、何かどんな感想をお持ちですかね？

(委員) あの、私自身がこの地域づくりの分でそれぞれ皆名張市15の団体でね、色々と地域の住民自治について色んな事を。で、当然、昔でしたらこのお金がある時代はもう逆に言

ったら仲間としてやってる方が良いんで、あれしてこれやってと言う、もうそういう時代じゃないんですよ。もう人も金共に全て行政がやるのはありませんから、そうなってくるとやはり自治と言うものを考えると色んな事が我々住民が全部やって主導権を握って行ってやらなあかんと。だけどやはりそこにはバックに必ず行政がついてある程度コントロールして欲しい。これはもう共同で切っても切り離せない。で、行政だけでもできないです。もう全て色んなものをね。だから私が今、委員会に出さしてもらってますけど、実際それ以外で私自身で十幾つ持ってるんで、あれもこれも出やなあかんねんけど、そういう状態になってきているんですね。ということは男女共同の部分についても、ある程度、主導権言うたら変な言い方なんですけど、この段取りとかその辺りがね、市の方が持ったりね。あと我々がいかにそこで住民と一緒に協議して前へ進めていくかというのは、我々が広めないと思えないと思います。いくら行政が言うてもパンフレット1枚ぱっとやっても大半まず9割9分ごみ収集じゃない、廃品回収の時どんつき、これはもう皆同じあれです。そこら辺はやっぱり間違えてはいかんと思います。

(委員) それと、男女共同参画フォーラムというのが、恒例で成功させないといけないところの審議会としても注目しておると思うんですが、それについて行政と色んな本当に積極的にこれをやって行きましょうというような団体とはやっぱり協働してないとあきませんよね？隙間風が吹いてたり、その意思疎通ができてない状況だとそれはやっぱり駄目だと思うんですよ。

(委員) だからこれを成功させる為にどうしたら良いのか担当室でもう1回課題を洗い直して、呼びかけなり、そういうような事でやって頂くというふうにした方が良いなど。今の状況やったらもうあかんと思います。

(委員) フォーラム当日の参加者もね、素人考えやけど絶対減りますよね。それ。

(委員) やっぱりね。燃えてね、参加してやってくれる核になる部分がなかったら、もうこんな全部駄目なんです。市役所は参加して下さい言うても無理ですよ。

(委員) このフォーラムって市長さんってどうでした？

(委員) 市長さん来てました。

(委員) 名張では本当に公式行事だから必ず市長がご挨拶されるし、議長もご挨拶して頂くフォーラムですよ。だから誰が男女共同参画やるのは亀井市長の目玉なんです。そして福祉の充実した街にするって言うのが亀井市長のね、キャッチですから、当然そこに力入れ

て頂いて、だから他の色んな団体さんにもそういう事で頑張ってくれてたし、地域づくりの場合ですね、前は区長さんされてたあの方はもうね。

(委員) 挨拶して頂いて実行委員長になって頂いて地域づくり組織さんもそこを参加して下さってたんです。と言うのがね、地域づくり組織さんの中にそういう団体の役員さんがはまっていますから、地域づくり組織さんが直接はネットワーク会議に入ってるしやらなくても関わって下さってるんですよ。だから大いに関係あるんです。

(会長) 分かりました。ちょっと時間もあれなんで、ということでその資料5ですね。この資料5の説明も兼ねてこれ、男女共同参画推進審議会、今日7月14日ということで、一応今も提言みたいなご意見が出ましたので、できましたらこの男女共同参画推進フォーラムの進め方なりを、より効果的にする為にはどうしたら良いかということ、今までしてきた団体や人たちと話し合いなり、そういうものをお教え頂いてしてもらおうということでいかがでしょうか？それでこの表記の変更ということですけども、それはどのように変更とすれば良いというか案があるんですか。

(委員) うーん。まあ名張市役所に考えていただければ。

(会長) 良いですか？

(委員) 良いですよ。

(委員) ここもうひとつだけその真ん中のね、実施状況の第1次評価でね、真ん中の実施評価、第1次評価の実施状況の所で日本語の意味がよく分からないのと。それからこちらの第1次評価の参画視点でのやつは③④⑤が2、2になってるんですよ。それでその第1評価も2、2となっていて、何でこういうふうになってるのか分からなかったんですよ。この2というのは他にほとんどないような悪い評価ですよ。

(委員) これを含めて色んな時の1次評価のこの内容が理解出来ないのと、今、言われた、この内容がきれたの？みたいな感じと、それからこの2の評価のところの、その理解がちょっと出来なかったんですね、このデータでは。今、会長さんがまとめられたように進めて頂いて良いですけど、ちょっとそういうふうな疑問がありました。

(会長) そうですね。ではそういう事務局にお渡しするというのでよろしいですか？

(委員) はい。

(会長) よろしいですか？はい。分かりました。それでは次の人権についての名張市民意識調査についてという事から事務局お願いします。

## (2) その他

### ①2016年実施「人権について名張市民意識調査」について

(事務局説明)

(会長) 今までの事で何かご質問とかご意見ありますでしょうか？

(委員) 感覚的なものなんですけど、趣味で古代史の勉強してますけど、天皇陛下が天皇制が出来たとかそういう事は韓国の朝鮮半島から来た渡来人がものすごい貢献してるという話をね、いつも頭に入ってます。人権問題についての話し合いってというのがあってね。資料4ですね。資料4で人権問題についての話し合いでわざわざ在日韓国・朝鮮人問題について項目を上げてる自身がね。何でこんなん上げたのかなという気がしてるんです。必要ないんじゃないかという事ね。今まで色々世話になってる。ありがとうと言う話じゃなくて何か問題起こしてるからこの事について家庭の中で話し合った事がありますと言う項目に挙げられるのかね。何となくちょっと変な言い方やけど気持ち悪かったんです。その感覚だけちょっと言わせて頂いて良いですか。

(委員) あの、私もそれは良く分かるんですけど、この人権についての名張市民意識調査っていうのはやってどういうように生かす。あるいはそこで何が問題になって出て来たんでしょうか？これはどうなんですか？

(事務局) はい。これは昨年実施を致しました。その中の一部抜粋という事ですけども、一応名張市の方、この審議会にもありますけども差別撤廃審議会というのがございます。そちらの方へ報告をさして頂いて、集計結果の方も報告をさせていただきました。事務局としての考察の方もさして頂いて実は今、平成30年度からのスタートを目指して名張市の人権施策の基本計画の見直しの策定を行っております。その基礎資料という事で名張市民の、ある分野でその人権課題に対する関心であるとか、問題意識であるとかそういったものの傾向の基礎資料として、活用出来ればという事で調査をさせて頂いたというものであります。

(委員) それで女性問題についてはどういう分析をされたんですか？

(事務局) 女性問題という、女性の方が男性よりも人権問題に関しては関心が高いっていう



のはこれは言えてました。実際、高齢者問題にしろ、ご自身の女性問題にしろ、子どもの人権問題にしろ、女性の方が関心が高った。男性の方が低かった。一方で同和問題とかそういった部分の方が女性の方が関心は低かった。そういった大まかな、今、ちょっと細かな分析結果持ってきてませんけども、ホームページの方に全文公開してございますので、またご覧になって頂ければというふうに思います。で、今、ご指摘を頂きました在日韓国・朝鮮人問題についてということですけども、この設問を設計する際に、国、あるいは県の方が過去実施をしたその設問を参考に設計した訳です。で、県との比較、国との比較、そういったものも何らかの目安になるだろうという事で、これを挙げさせて頂いたと。事務局として何らかの意図があってこの項目を入れたという事ではございません。

(委員) これ、もうだいぶ前の古い感覚としてねえ、在日朝鮮韓国人なんて言い方が。

(委員) 問題はむしろヘイトスピーチについてどう考えてるのかってというような事聞くもんなんですけど。何やら。これ、ええっと言うぐらいの意識って言うのがね、分からん事もないですよ。うん。女性問題というかそういうものにどのように活かしていくのかということなんやけど、出てこないですよ？

(事務局) これから、揉んでいく訳でございます。

(委員) 今の説明をお聞きしてたら、ええって言うやつが他にもあったんですが、予想通りと言うか、予想通り言うたら間違いで、予想もせんかったけど大体感覚的にはこういうような人が多いなあというふうな気がしましたね。

(委員) ちょっとビックリなのが「子育て期間中は母親が育児に専念するべきだ」って言うのがまだこんなにあるのっていう。

(委員) それはありますね。

(委員) そう思うと、「どちらかと言えばそう思う」って言うのがねえ。合わせたらもう30何%。

(事務局) その辺の部分ですけども、資料編の方をご覧になって頂いたらお分かり頂けると思うんですけどね。回答された方のほぼ半数以上が50歳、60歳以上の方なんです。若年層の回答が極めて低い。

(委員) 郵送されたんじゃないですか？

(事務局) 郵送です。

(委員) 無作為で？

(事務局) 無作為です。

(委員) という事は回答率の中で若い人は少なかった？

(事務局) 少ないですね。で、回答、有効回収が35.6という事でしたけども、一応統計学的には正確さというのが担保されてるっていう事で、進めては行ったんですけどもこれが実態だと。あと仮に何度かやっても同じような回答者の年齢構成で返ってくるんだろうなあとというふうに考えてるんですけども、ちょっと厳しいかなというふうな所は感じますね。あと総論賛成各論反対的な交錯した意見とかですね。差別はけしからんと言っていながら差別されたって言う人の話聞いてたら、やっつけられへんわいって言うのがどちらもものすごい数7割8割を占めるっていうふうなそういう交錯したって言うか矛盾した意見が結構見受けられますので、その辺今後の啓発の鍵と言うのかな。

(委員) 女性の方が例えばその差別とかに関しての色んな項目で関心が高いと言われたけれども。

(事務局) そうですね。

(委員) 女性はやっぱり弱者なんです。

(事務局) 私もそう思いました。だから障害者問題にしる女性問題にしる高齢者問題にしる子どもの問題にしる女性の方が関心が高いと。と言うのはその人たちへの関わりという部分が女性にかなり依存されてる。だから関心持たざるを得ないというそういう状況もあると思うんです。それが一番大きいかと思います。

(委員) だからやっぱり自分が今まで生きてる中でかなり色々な場面で大変な思いをしながら来てるから、そういう部分が見えて来ると言うのかな。それはあると思ってますけどねえ。で、これをどんなふうにして。

(委員) 難しいと思うんですけどね。そのアンケート取る時にね。何らかの回答が出てくるよう取るじゃない？で、これはちょっと非常に分析しにくい。人の考えやからそれぞれのそ

のたくさん項目もあるし、難しいけど。

(委員) これもしね、自分の家に送られて来たらね。多分30代ぐらいやったらね。仕事忙しいしね。7月の1日の26日まで、この暑い時にこんなもん送ってきやがってなってしまう。今やったら余裕あるからね。おお、こんな調査してるんや。

(委員) 多いと言っても、中身がね。

(委員) 僕はええなとか思ったりね。しながらね、やるんやけどね。

(委員) すごい、すごいでしょ？回答するにしたって。これだけの数、全部書くのかと。

(委員) これが30年に制定される基本計画の土台になる？

(委員) どこで使う？

(事務局) ひとつの資料ですね。施策として特に啓発等、分野別の人権課題の啓発等にどう活かしていくか、どんな課題意識を持ってるのか、どんな意識自体でいるのか。

(委員) それやったら女性問題に関してはベルフラワーの方を。

(事務局) はい。もちろんそうです。この基本計画って言いますのは、我々人権のセクションが、それぞれのセクションに向けてこんな事やれって言うのではないです。それぞれの行政分野で行政計画を持っています。それを粛々と進めて頂く事でベルフラワー進めて頂いて女性の人権というのは上がっていくっていう事ですので、そういう観点からまとめていこうとしてるもんです。

(委員) そういう意味で言うとね。一番最後のね。過去5年に受けた人権侵害への対応という事で、まさにこれこそ5番のね、県の機関、まあ要するに三重県あるいはそういう行政機関ですよ。

(事務局) そうです。

(委員) 行政機関に対してこれだけ少ないという事、ここが一番の問題ですよ。

(事務局) 問題です。ですので、敢えてこれを付けさせて頂いたんです。女性という事限定

じゃなくて、こんな実態なんだと。一番多いのが我慢する。その後相談するにしても身近な人、で、それで解決するのかって言うたら気休めぐらいにしかないんだと。それだけきっちりその相談機能果たしてないんじゃないか。まあ昨年12月に部落差別解消推進法が制定されて、その中で部落差別の相談に的確に応じられるような体制の整備が書かれています。それもこういった事を裏付けしてるんやろなあというふうに思う所です。

(委員) 私が提案するとしたらこの人権侵害に対して市のあるいは県の行政相談したという割合が3.4%、これを34にするとかね、そういう目標値を持って頂く。それをひとつ提案します。

(事務局) 34は厳しいです。

(委員) 10倍目標で。

(委員) 果たせるようにして欲しいです。

(委員) まあね、このアンケートほんまに10年、10年前と同じ答えが出てるし。

(事務局) ある程度その過去と比べるというのもありましたし、こちらはこちらで撤廃審の方にその設問の段階からお諮りをして意見聴取して組み上げたというものですので、その点ご理解頂ければ。

(委員) これ市の相談窓口って具体的に相談しようと思ったらどこに行けば良いんですか？

(事務局) 具体的に自分、今こんな事で困ってるんだという事で明確になっているものはピンポイントで窓口に行って頂きますけども、どうこっちゃねん、もう。っていう事であれば、総合窓口センター1階に、そちらの方に行って頂いたらそこから。

(委員) 言ってくれる。

(事務局) もう行って頂くの申し訳ないんで担当降りて来いという事で行かせて頂く形になると思います。

(会長) これに関連して資料2でその女性相談という事なんかも、大体やっぱり言うてくるのは多いんですね。男性のための相談というのも。

ありがとうございます。その他なんですけれども、事務局から説明ですね。お願いします。

## ②平成29年度男女共同参画推進事業について

(事務局説明)

(会長) ありがとうございます。何かご質問、ありませんか。

(委員) 資料で見つけられなかったんですけど、いわゆる地区協ってありますね？地区協、地域15団体あって。

(事務局) はい。

(委員) で、その団体のところにこういう事を出来る人を置くというのが市の考え方と違いましたかね？

(委員) 推進委員。

(委員) 推進委員か。で、それでお聞きしたいのがそういう動きはね、各地区と言いますか、そこではもう動きがあるんですか？

(委員) ないです。

(委員) 申し訳ないです。と言うのがこれ議題に上がらないのがもう先。基本的には15団体集まって行政からの報告とか連絡で、それぞれの地域で困りごととか、だから大体テーマ的には似たり寄ったりですけど色々出てくる訳なんです。それをすぐには解決出来なくても、みんなの共通認識としてね。こういう事はこういうふうにしよう。だからそこでそれぞれあの積極的にやってる所はそういう市の担い役をやって失敗しないようにね。そういう形のをメインにやっ行ってこうと。まあそうは言っても中々出て来ないですね。言っはいますけど。大体大半が連絡とかそういう部分に終始してるのが現状です。あの言いたいの以前のように会長1人でいろんな委員会を回っていると、地域の方が出来なくなる。それはもう本末転倒なんです。だから大きく3つのグループに分かれている。あっ、5つずつですね。それぞれが最低2つもしくは3つ役員全部色んな所を派遣してそれぞれでやっ行くという形ですね。それを2か月に1回聞いているというような部分で発表あるかと言うとそれはないです。それをやったらものすごい時間が掛かります。前より時間が掛かり

ます。

(委員) 民生委員児童委員で例えば女性の委員さんなりが、男女共同参画委員をおやりになるとかそういうのはいかがですか？

(委員) ないです。

(委員) あの、何人かおられるんですね？

(委員) 何人もおられるって言ったらあれなんです。半々というより男ならこういう事出来ない。女の人だから出来ないというような事はありませんので、持ってる考え方というのもみんなで統一したりとかで、年寄りとか子どもも一緒ですけども、相談事をお聞きし、それを調べていき、行政機関の方にお伝えをするというのが我々の本来の責務です。

(委員) 何人おられるんです？

(委員) 今、名張市内では186人。

(委員) 男女のベースで言いますと、例えば、箕曲地区では、男性が6人。あと15人が女性ですね。

(委員) 事務局、いわゆる基礎的コミュニティの代表者、いわゆる自治会とか地域づくりの会長で女性がその代表してるのが幾つあるか？

(事務局) 地域づくりの方ではいらっしゃらないですね。基礎的コミュニティの方では100幾つある中で、4～5名じゃないですかねえ。

(委員) そうですね。これ実体験なんですけど、色々お願いに行ってもそんな面倒くさい事せえへんって言うです。

(委員) うーん。そうですね。

(委員) ご主人はもっとせえへん。もう選ぶのがもう大変なんです。

(委員) それは自治会の会長の話ですか？

(委員) はい。基礎的コミュニティ。まあ私の所は400世帯を1人の分をやらなあかんです。まあそこで基本的には選挙というか、手をまず自分で挙げるか否か。で、挙げないのがほとんどなんでみんな推薦という形になるんですけど、それがもうそれぞれその時代の役員さんがみんな1軒ずつ押しかけて行くんです。これ2年に1回やらなあかんです。

(委員) テレビでもやってましたね。自治会の会長をね。引き受けるか引き受けないかと言うのと、自治会に入るべきかね、入らないべきか言うのみたいなのがやってましたから、もう自治会そのものがね。若い人は要らんみたいなねって言うような人もおられましたね。

(委員) 確かにおよそ3年前に朝日新聞がそれを大々的に不要論的なものでやっちゃったもんだからそれらを基に景気変えますけど、今、名張市の方で全部15のブロックで平均的に、これはあくまで平均なんですけど、自治会に入っておられる方が84%。まだ多い方です。

(委員) 自治会って、言われるのは簡単やけどねえ。潰れたらもう終わりですよ。

(委員) 道義的にね、外れたから何か有事の時に、隣のおっちゃんおばちゃんを助けないと言う訳にいかないですよ。

(委員) それはそうです。自治会とそれは別もんですよ。

(委員) だから向こう3軒両隣が基本ベースですけどね。で、みんな頑張ってねえ。それぞれの役員たちと頑張ってやってはくれてますけど、じゃあそれが例えば0になった場合、10何ブロックの中と、じゃあそこで生活出来るか、色んなね。言うのが行政対応全て0になります。行政は言いよう行きようがないんですよ。例えばそのブロックよりそれまでだったらそういう協議会とかまちづくりがあるから、そこに行政からお金の問題とか色んな内容のお話が行けるでしょ。ところがそれが窓口がなくなるんですから。で、税金払っとるんやから行ける。それ全部持って来いなんてそんな事出来へん。そうじゃなくても人数がどんどん減らされて、ところが内容はどんどん複雑になって来るという事なんですよ。

(会長) 事務局にお願いしたいんですけどね。数値目標一覧っていうのがありますでしょ？市計画ベルフラワーね。

(事務局) はい。

(会長) これね。これ一生懸命皆さん何回も集まってやっています。そのⅡの所でね、あらゆ

る分野における男女共同参画の推進という事で、数値目標を書いて全部、ね。良くご存じやと思うですけども、あのまあ市の管理職の割合。それから審議会等の女性委員の割合。それから小中学校の女性教員の割合。それから男女共同参画推進委員のいる地域づくり組織数、これ男女共同参画推進委員というのを作る、が地域におるという事をこれ15地域というふうに2021年なるんですけど。それから農業委員定数に占める女性農業委員の割合、これが16%。そういうように、それから防災訓練、女性消防団員定数の充足率、こういうように全部数値目標を掲げとるんですよ。だからこれは市民との約束なんですよ。だからこれを実現させる為に、今年よりも来年どのようにしていったらこれに近付けられるかという施策を打ってもらわないと、これはずっと絵に描いた餅なんですよ。そこらへんを、今言ってるのはそれ地域づくりのように基礎的な団体の何人かで、どういう団体があってそこで男女どういうふうにやってはるのかというこの実態調査をね。担当が一番知ってないとだめなんですよ。ね。それでちょっと口をすっぱくして言ってるんですけども、共同フォーラムやネットワークに参加しますよと言ってる人材をね。やっぱり大切にしなければ、全然協働出来ないと思いますね。だからその基礎的データをしっかりと掴んで頂くという事を特にお願いしておきたいというふうに思います。

(委員) 良いですか？

(会長) どうぞ。

(委員) 先ほど資料5と今のね、会長の言われた事と関係するんですけども、例えばあの2017年度の重点取組が「まちじゅう元気！イクボス宣言なばり」って書いてありますよね？これさっき聞き逃したかもしれないけど9月は来年度の9月ですか？

(事務局) 今年度です。

(委員) 今年度の9月までに宣言をするという事ですか？

(事務局) はい。

(委員) そういう場合はやっぱりイクボス宣言で、ボスをね、つまりトップを動かして興味を持ってもらうとかね。その全体を動かしていくのであれば、重点取組であるこのイベントの中にね、何故入らないのかなって思うんですよ。例えばその講演会とかですね。イクボスのNPOとかありますでしょ？

(事務局) はい。



(委員) 全国のね、NPOがあるんですよ。で、その会長さんも良い方だしね、そういう事でこれすごく私がこれ見て、やるんだと思って、すごくビックリしたし喜んだんですけど、つまりトップの所をイクボス、イクメンではなくてイクボスがいて、理解者がたくさんいてイクメンが育つという事なんで、この川柳も良いし、それから映画も良いし、その色んなその講演会も良いですけど、それに今年の9月なのでもうちょっと遅いんですけどね。入れていくみたいだね。で、イクボス宣言をするためのその準備みたいなものをね、市民に広める事が必要だからとひとつ思ったんですね。で、それとこの数字との関係ですけども、市の女性管理職の動きみたいな、これもやっぱり上下せなあかんんですけど、市が率先して女性管理職が率先してひとつのチームワークを作ってみせるというね。その姿勢をね、姿勢と活動を市民にも見せてそれを浸透させていくそういうのも、もう既に始まって良いんじゃないかなと思うんです。

(委員) で、これ宣言をする訳ですか？

(事務局) 市役所が、市長が宣言するとなりますと、事業所としての市役所が宣言したに過ぎませんので、私どもの立場としてはこれを市全体に広げたいと、市、市民全体でこういうふうな働き方の見直しによって、女性の活躍の推進であったり、家事など共同参画を目指していますので、市内の事業者さんの方にも働きかけを行いまして一緒に宣言しようと進めている所です。ですのでフォーラムとは別で合同宣言式という形で考えてまして、今おっしゃって頂いたようなNPO法人の方に立会人になって頂く方向で、県の方と調整しています。

(委員) じゃあ審議会で提案しましょうよ。男女共同参画推進フォーラムで是非やりましたって言う報告を市長にして頂きたい。

(委員) いや、それすごく効果的だと思うんですけど。

(委員) それとさっきのね、男女共同参画推進委員。あのやり方としてね。確か2年に1回、今年もそうだったんですけど、色んな方から交通安全の事だとか青少年育成だとかだとかスポーツ委員とかああいう形で、頑張ってもらえる方、各地域づくりの方から1人ないし2人出してくださいとかありますでしょ？あれと同じやり方でしてくれませんか？

(事務局) ありがたいです。

(委員) 変な話、その時にだけ私らも人探しせなあかんので、やる事はもうひとつの項目が増えるかどうかだけの話でしょ？

(事務局) はい。

(委員) 逆にそっち側の方が僕らも2年に1回ですから、当然我々も交代したりしますけれども順送りとして次の人にこれは必ずこれやらなあかんよ、これもやらなあかんと。基礎的コミュニティの代表者でなくても、そういうふうな分で関係がある方。

(委員) 意外とそういう人たちの方が地域づくりで色んな事を多分お手伝いしてくれてる人となると男性でも女性でもやりやすいんで、どんな事やるのかいうのさえ分かればこちらも持って行きやすい。

(委員) それって去年はお願いなかったんですか？

(委員) ないです。私色んな事ずっとやってますけどないです。

(委員) 去年もねえ。ネットワーク会議の方からねえ。全地域づくり組織さんに男女共同参画推進委員及び男女共同参画推進メンバー会議にはまってもらわれへんってぜひ言うてねってお願いしてたんですけど、それはなかったという事ですか？

(委員) すれ違ってたんです。

(委員) あったら1年早くねえ、推進委員さん出来たのに残念やわ。

(委員) 無限サイクルですけど、来年やるとしてとりあえず1年やってもらって、次から2年って切り替えで行った方がいいんじゃないかと。

(委員) 私で良かったら協力してやらせて頂きますしねえ。

(委員) そうです。そうです。あの結構1回やったらもう10年ぐらいそのままという人も結構いらっしやるので。

(会長) 良い案頂きましてありがとうございます。

トップが変わる事によってみんなが変わるみたい。今まで見て来てたらほとんど変わらないっていうか、その当初の報告書読んでもね、難しいと。この最初の所が本当難しいっていうふうな事で周知してますのでね。だからそれを変える為には、ちょっとした強行手段みたいな、少し抜本的なショック療法でないですけどね。力があるものが例を見せて、だから

この管理職ですね。市の管理職の室長とかね、そういう方たちが支援チームみたいなものを作って見せて、今のようなお話は埋もれてると思うんですよ。人材をね。だからヒューマンリソースの大学出た女性ってものすごくたくさん司法を習ってる人もね、おられるからそういう人たちの人力をですね、引っ張り出すような。きっとね、探せばいっぱいいらっしやると思いますよ。

(委員) あの脅かすようで悪いんやけどね、9月にイクボス宣言しますって言うてるけど、そんな簡単に出来るもんじゃないですよ。今から始めてどうのように種を撒いてどうするかっていうこのスケジュールがね、多岐に渡って済ましていくと絶対に出来ません。

(委員) 例えば男女共同参画フォーラムをやりますと、そこでお宅の企業を表彰したいと。壇上に立って頂きますとかね。そういうのを入れるんですよ。

(委員) 楽しくやって頂いたら良いんじゃないかな。

(委員) せっかく市長がね、名張のネウボラ言うて、少子化対策ですか。あるので言ってくれたりとか、今各地域づくりにおいても、そのイクメンとかそういう部分はやってるところはあるけど一時に比べたらちょっとガクンと落ちております。もう繰り返しになるからこうやっていった事忘れてはいけませんとか。孫の為にとか。

(委員) 元々審議会はこの宣言ね。やられるならもう全面的に協力致しますので。

(事務局) ありがとうございます。

(委員) 大々的に楽しくこうやって頂いたら良いと思うんです。

(委員) 楽しみにしています。

(会長) あのよろしいでしょうか？あの色々と言いましたけれどもまあ何とか面白い審議会ですので以後よろしくお願い致します。次、事務局の方から。

### ③その他

住所等異動の確認

## 5. 閉会